

北海道浮魚ニュース

平成 11 (1999) 年度 6 号 (通巻 No.52)

1999 年 7 月 12 日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

太平洋スルメイカ北上期調査結果

金星丸 (函館水試調査船) により行われたスルメイカ調査結果をお知らせします。

調査期間 : 1999 年 6 月 28 日 ~ 7 月 8 日

調査海域 : 道南太平洋 (渡島半島沖 ~ 日高沖 ~ 下北半島沖 ~ 津軽海峡)

1. 表面水温は、12~16 台と前年並かやや高めでした。また、50m水温は 8~13 台で前年の 4~13 台より高めの海域があり、特に日高沖の Sta.15 では 5 以上高めでした (図 1, 2 参照)。
2. CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数 : この数が大きいほど濃い群) は、4 調査点全体では 0.03~3.7 (前年 0.8~3.2) 尾/(台・時) の範囲にあり、昨年同様かなり低い値でした。また、全調査点の平均 CPUE は 1.1 尾/(台・時) であり、1993(H5) 年以降では最低でした (表参照)。
3. スルメイカの外套長 (足の部分を除いた胴の長さ) は、4 調査点全体では 14~25cm の範囲でした。また、各調査点のモード (標準的な大きさ) は 14~18cm であり、前年よりはやや大きいものの、H5~H9 年と比べれば、数センチほど小さな魚体でした (表, 図参照)。また、前年同様、日本海松前沖のスルメイカ (範囲 18-25 モード 20cm) に比べても小型でした。
4. 今回のスルメイカ調査は、前年同様あまりよい結果ではありませんでしたが、渡島半島東岸の定置網では 1 日数トンの漁獲が続いている事を考えれば、スルメイカはごく沿岸を回遊していると推定されます。また、現在、函館沖の漁況は前年を上回っていますので、日本海からの大型イカの来遊にも期待したいものです。

(文責 : 函館水試 資源管理部)

* 直通電話番号は 0138 - 57 - 5997

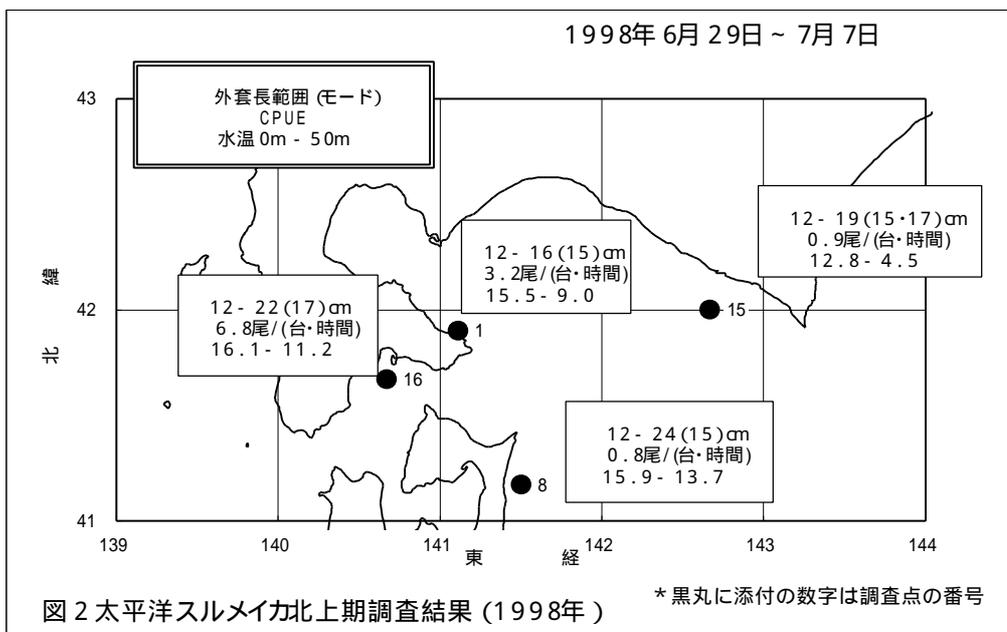
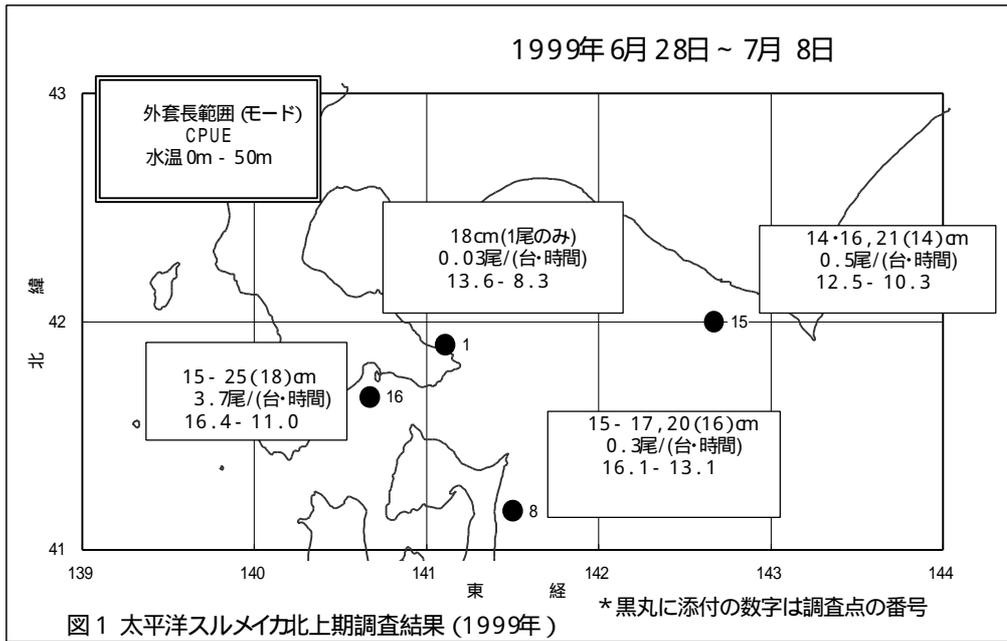


表 道南太平洋スルメイカ北上期調査時の CPUE と外套長の経年変化

4 調査点の	1993(H5)	1994(H6)	1995(H7)	1996(H8)	1997(H9)	1998(H10)	1999(H11)
	7/13-22	7/11-21	7/5-13	7/4-19	7/1-9	6/29-7/7	6/28-7/8
平均 CPUE (尾/台時)	6.5	4.3	10.9	7.4	20.0	2.9	1.1
外套長の範囲 (cm)	9-25	8-29	11-26	11-27	12-26	12-24	14-25
外套長モードの 範囲(cm)	17-19	18-22	16-20	15-19	16-24	15-17	14-18